

1. 推進地域の現状と課題及び調査研究の目的

本県には、「あわ文化4大モチーフ」といわれる徳島を代表する「阿波藍」「阿波人形浄瑠璃」「阿波おどり」「ベートーヴェン第九」といった文化芸術、「四国八十八箇所霊場と遍路道」等の貴重な史跡や文化遺産が多数あり、このような郷土の文化芸術や文化遺産を体験的に学ぶ機会を充実させることにより、豊かな感性や情操を養うとともに、伝統文化を継承・創造していく力を育成することを目指している。

そこで、平成25年度より、「ふるさと発見！あわっ子文化大使育成プロジェクト」を立ち上げ、発達段階に応じて行う「あわ文化教育」のねらいや目指す児童生徒像、取組に向けての方策などを明確にした文化教育の指針を具体的に示すとともに、あわ文化の学習資料等を作成し、学校における活用を進めてきた。

また、ふるさと徳島の伝統や文化を担い、誇りをもって県内外で発信し続ける「あわっ子文化大使」の育成に向けて取り組んできた。その過程において、平成28年度からは、当初の事業を「あわっ子文化大使発信力育成プロジェクト」に組み替え、「あわ文化教育」の普及と「あわっ子文化大使」の情報発信力の強化に視点を当ててきた。

その結果、県立中学校3校よりスタートした「あわ文化教育」は、平成28年度には、対象を県内全ての公立中学校83校に拡大し、公立中学校1,2年生で「あわ文化教育」が行われるようになり、平成30年度は16校の公立中学校より認定された総勢60名の「あわっ子文化大使」で、ふるさと徳島のよさを情報発信してきた。

その中で、次の2つが課題として浮かび上がってきた。1つは学校によって「あわ文化教育」への取組に温度差があること、もう1つは「あわっ子文化大使」の情報発信力の向上である。

県内公立中学校に対象を拡大してきたことで、市町村立中学校の「あわ文化検定」の受検者数は増加し一定の成果は見られるようになった。今後更に「あわ文化教育」を各校に浸透させるためには、中学校教員を対象としたリーダー研修を充実させることにより、各校での推進役となる「文化教育担当リーダー」を育成することが重要となる。

もう一つの課題である「あわっ子文化大使」の情報発信力の向上であるが、「あわっ子文化大使」には、活動日当日にしか指導できないこともあり、伝統文化の魅力を伝えようという意欲はあるが、伝えたい内容が十分に伝わらないことがあった。

平成29年度は、この課題の解決に向け、「あわっ子文化大使」の情報発信力を向上させるため「あわ文化プロモーションビデオ」の作成を試みた。「4大モチーフ」等のあわ文化を体験し、実感することによって、「あわっ子文化大使」自身の「多くの人にあわ文化の魅力を伝えたい」という意欲の高まりが見られるとともに、広報手段を与えることにより、発信する喜びも感じるようになった。

本年度は、「あわ文化」の学習や体験をもとに、あわっ子文化大使自身が「あわ文化」を広報するプランを企画、実施していくことをとおして、「あわっ子文化大使」の情報発信力を更に向上させるとともに、各校での「あわ文化」教育の実践方法を共有し、文化教育の指導方法の改善に活かしていきたいと考えた。これらの実践をとおして、一層の「あわ文化教育」の充実を図ってきた。

2. 調査研究の実施内容

(1) 具体的な実施内容 類型【Ⅲ】

1 「あわっ子文化大使」活躍事業の実施

- ・平成29年度に実施した「あわ文化体験学習」等をもとに「あわっ子文化大使」が徳島県の歴史や文化財について中学生目線で発信する「あわ歴史・文化体験ツアー」の企画・実施。

※プロモーションビデオの作成「あわっ子文化大使による『あわ文化』の紹介」(H29年度)
YouTubeにて公開

- ・企画した体験プランで、モニターツアーを実施し、あわっ子文化大使自身が観光ガイドを実践。
- ・体験ツアーの広報動画を作成し情報発信。(H30年度)

ホームページアドレス <http://awabunka.tokushima-ec.ed.jp/>

2 Beyond the 「あわっ子文化大使」事業の実施

- ・研修会を実施し、高校生サポーターが「あわっ子文化大使」とともに活躍できる場の創出。

3 「あわ文化検定」事業の実施

- ・本年度で、6回目の実施となり、各校で定着しつつある「あわ文化検定」を実施するにあたり、さらなる受検校、受検者数の増加を図った。
- ・生徒が取り組んだ「あわ文化教育」の成果を確認する機会とした。

4 あわ文化教育リーダー研修の実施

- ・全公立中学校より「あわ文化教育」の推進教員を招集し、「あわ文化テキストブック」の効果的な活用方法を研修するとともに、各校の実践事例の共有の場とした。
- ※あわ文化テキストブック(生徒用・教師用教材)の活用

(2) 成果の検証

1 「あわ文化教育」を実施した中学校の教員や生徒を対象としたアンケート調査による検証

○「あわ文化教育」を実施した生徒及び教員の感想(抜粋)

生徒の感想

(あわ文化学習により気付いたこと)

- ・生まれてからずっと徳島に住んでいるのに、知らないことがたくさんあって驚いた。
- ・私は、阿波踊りをしているけれど、全く阿波踊りの歴史を知らなかった。
- ・先生方がスライドで説明してくれたことで、「あわ文化」について考えることができた。

(良かったこと)

- ・みんなで協力して学習することで楽しく覚えることができた。
- ・3年生がクイズ形式で「あわ文化」の問題を出してくれたのが分かりやすかった。
- ・最初は、あまり興味がなかったけれど、学習をしていくうちにすごく興味をもてた。学習の仕方も楽しかった。
- ・自分が人形浄瑠璃をしているので、より学びを深めることができてよかった。
- ・徳島のことを知ることで、徳島への愛情がより深まった。

- ・後輩たちの学習のために、クイズを作ったことが楽しかった。
(考えたり決意したこと)
- ・もっと、たくさんのことを聞いて、触れて、体験して学習していきたい。
- ・学習をしたところにまた、実際に行ってみたり、体験をしてみたい。
- ・伝統を私たちが受け継いで、大切にしていかなければならないと改めて感じた。
- ・改めて、世界に誇れる「あわ文化」をたくさんの人に知ってもらいたいと感じた。

教師の感想

(成果と感じるもの)

- ・前向きで素直な生徒が多いうえに、阿波踊りや地域の文化、三番叟まわし伝承教室などに参加している生徒も多く、体験と学習を結び付けて考えられる生徒がたくさんいた。学習にも関心をもってくれた。
- ・徳島に住んでいながら、知らなかったこともあったので、改めて、徳島の伝統文化について学ぶことで、もっと、徳島のことを知りたいという気持ちが湧いてきた。実際に体験したい、伝えたいという生徒もいた。
- ・徳島の素晴らしさを知ることで、郷土愛が育ってきている。
- ・学ぶことの楽しさを全員で味わうことができた。
- ・自分たちの住む徳島県と、「あわ文化」を継承している自分たちに誇りをもつことができた。

(課題と感じるもの)

- ・指導時間の確保や啓発、広報の進め方。
- ・興味があっても、覚えたり、理解することが苦手な生徒への支援。
- ・文化検定に不合格となった生徒への配慮。
- ・生徒に指導をするにあたっての準備（指導資料、スライド、生徒用プリント、検定前プリント）の多さ。
- ・限りある学習時間の中で、興味をもたせることの難しさ。

○アンケート結果について

教員に対するアンケートの「あわ文化教育を進めていく中で、生徒たちの変容は、ありましたか。」の質問については、すべての教員が「変容があった」と回答している。

また、生徒に対するアンケートの「あわ文化についての学習には興味をもてましたか。」の質問については次のような結果となっている。（全回答者数117名）

とてももてた	49名(41.9%)	少しもてた	58名(49.6%)
あまりもてなかった	2名(1.7%)	ぜんぜんもてなかった	1名(0.9%)
どちらでもない	7名(6.0%)		

生徒の感想と教員の感想を比べてみると、生徒の感じている喜びや意欲を教員が成果としてしっかりと受け止めることができしており、生徒と教員、更には、教員同士が共通理解のもとに、共に学習を進めてきた様子がよく分かる。

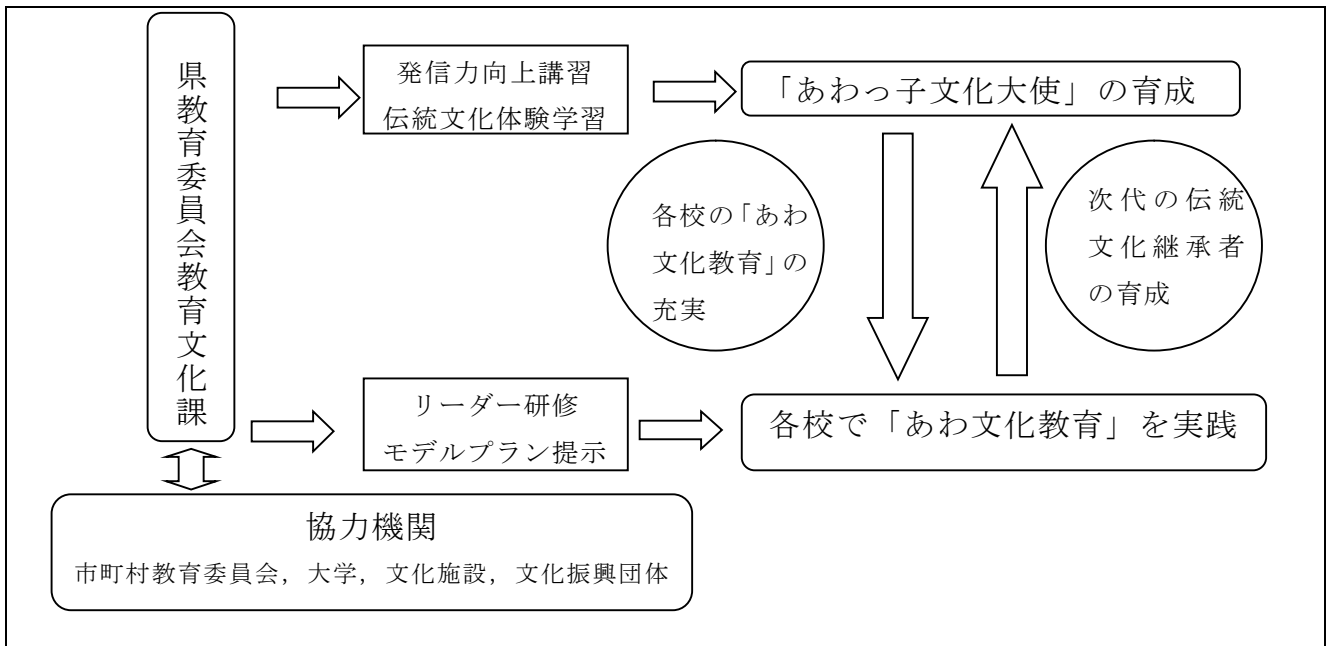
また、教員が生徒の興味関心を高めるために、工夫をして取り組んだことが生徒の活動に生きていることも感じられる。

2 「あわ文化検定」の受検率及び合格率による「あわ文化教育」の普及についての検証

年 度	生徒数	受検者数	受検率	合格者数	合格率
平成25年度	13,296人	257人	1.9%	118人	45.9%
平成26年度	13,251人	612人	4.6%	286人	46.7%
平成27年度	12,860人	958人	7.4%	574人	59.9%
平成28年度	12,378人	710人	5.7%	322人	45.4%
平成29年度	12,069人	882人	7.3%	611人	69.3%
平成30年度	11,591人	1045人	9.0%		

※生徒数は、県内公立中学校1・2年生の全生徒数

3. 実施体制 (市町村教育委員会及び県内の大学や文化振興団体等との連携)



4. 今後に向けて

先に成果として述べたように、各校で地域や学校の特性を踏まえた工夫した取組が行われており、「あわ文化教育」が定着してきていると感じられる。しかしながら、その分、教員の負担が大きいのも事実である。今後、各学校のあわ文化教育担当教員が活動しやすい組織作りを更に進めていくとともに、各校の指導方法を共有できる体制を整えていくことが必要であると考え、本年度からは、年度当初に実施している「あわ文化教育リーダー研修」において、中学校の教員による「あわ文化教育の実践報告」という時間を設け、効果的な指導法を共有する場とした。今後も、研修の内容を検討し「あわ文化教育」実施のヒントとなるような機会としていく必要がある。

また、あわっ子文化大使の活動の際には、参加したあわっ子文化大使が、取材した内容をまとめたり、実際に体験した様々なあわ文化についての感想を書いたりすることで、活動の振り返りをするとともに、まとめた内容を発信のための材料としてきた。活動の最初の時期には、レポートをまとめることに困難を感じる生徒が多いことや、自ら進んで発言を行う生徒が少ないということが課題に思われた。また、活動によって、参加するメンバーが常に変化するため、継続した指導が難しいと感じる面もあった。しかし、実施した活動のほぼ全てに渡り参加したあわっ子文化大使も数名おり、そのような生徒に関しては、作成したレポートの内容や他の参加者とのコミュニケーション等において、確実に成長がみられた。今後は、あわっ子文化大使在籍校との連携を密にし、活動の内容や時期等について検討を重ね、あわっ子文化大使をより活動しやすいものとしていきたい。そして、「ふるさと徳島」への誇りを胸に、世界で活躍するグローバルな人材を育成していきたい。